

令和元年度 保幼小連携地区ブロック活動報告書

1 地区ブロック名 桂萱 地区ブロック
 今年度のテーマ ポイントとなる姿 (言葉による伝え合い)

2 地区ブロックの組織 (ブロック内学校・園・所名)

- ・桂萱小学校 ・桃木小学校 ・桂萱東小学校 ・桃瀬小学校
- ・**前橋特別支援学校** ・認定こども園江木幼稚園
- ・認定こども園第二あさひ幼稚園 ・認定こども園桃瀬幼稚園
- ・認定こども園あさひ幼稚園 ・認定こども園もものき
- ・愛泉保育園 ・桂萱保育所

3 連携推進活動 (実施した交流活動等)

| 日 時 | 場 所 | 内 容 |
|-------------------|-----------------|---|
| 5月16日(木) | 総合福祉会館 | 第1回地区ブロック会議 計画立案・情報交換 |
| 5月31日(金) | 桃木小学校 | 学校公開日 |
| 6月14日(金) | 前橋特別支援学校 | 学校見学日(午前中) |
| 6月26日(水) | 桂萱小学校 | 地域学校公開日 |
| 9月28日(土) | 桃木小学校 | 秋季大運動会 |
| | 桃瀬小学校 | 秋季大運動会 |
| | 桂萱東小学校 | 秋季大運動会 |
| | 桂萱小学校 | 秋季大運動会 |
| 10月31日(木) | 桂萱保育所 | 買い物ごっこ |
| 10月19日(土) | 愛泉保育園 | 運動会(13:00~) |
| 11月21日(木) | 桃木小学校 | 学校公開日 |
| 11月22日(金) | 桂萱東小学校 | 学校公開日(午前中) |
| ○11月28日(木) | 前橋特別支援学校 | 地区ブロック研修会15:00~ (実践発表) |
| 1月16日(木) | 桂萱保育所 | 保育参観 |
| 2月25日(火) | 認定子ども園 | オープン保育 |
| ~27日(木) | もものき | |
| 3月20日(金) | 愛泉保育園 | 卒園式(13:00~) |

4 令和2年度の代表校園所【 江木幼稚園 】

5 これからの保育・教育に生かしたいこと

- 素晴らしい実践でしたが、特に以下の二点に大きな感銘を受けました。

第一に、児童の発達の実態や好みに応じた手立てを考え、スモールステップでの支援がなされているところです。個に応じた自立活動の目標や手立てをしっかりと考えて指導なさっていることがわかりました。

第二に、意思を伝えるということで、児童の世界が広がったということです。児童のコミュニケーションの手段が増えることや、「できた」という自信につながる経験は、児童の世界をどんどん広げていくきっかけになるのだと映像を見ていて思いました。

低学年の児童はなかなか言葉をうまく伝えられないことから友達同士のトラブルにつながってしまうことも多いです。しかし、自分の思いを伝えるという上手な手段を身につけさせてあげることで、友達関係や日々の生活をよりよいものにするだけでなく、これからの児童の可能性や世界を広げることもできると考えると、意思の伝え方を指導することは、今回の事例にとどまらず、大切なことだと思います。今後の教育に生かしていきたいと思います。
- 個に応じた指導や配慮が、どの学校・園、どんな場面でも大切だということを実感しました。今年度1年生を担当し、いろいろな個性を持つ児童が学年全体で多く、その場面によって、その行動にどう対応するのがよいのか、悩むことがありました。

今回の研修で、一人一人の子どもと向き合い、日々児童に寄り添って、理解をしていくことから信頼関係を築くことや、集団を大事にしていきながら、一人一人の児童に大事に関わって、個人を育てていくことの大切さなど、たくさんのことを学ばせていただきました。

児童が何に関心があるのか、何を伝えたいと考えているのか、その行動を肯定的に見ていけたら、児童を理解していけるのではないかと思います。日々、いろいろな子どもと過ごす中で、子どもに寄り添ったり、離れて見守ったりしながら、一人一人の成長に関わっていけたらと思いました。
- 児童一人一人を観察しながら、個性や発達段階を考慮し、丁寧に見取っていくことが大切であると感じた。自分の意思を伝えるににくい児童には、カードやハンドサインなどの手立てを工夫し、繰り返し指導しながら、児童のめあてや願いなど、希望がもてるように、よさを肯定し、次の目標が見つけれられるように支援していきたい。

また特別な支援が必要な児童を受け入れる集団が、一人の個性特徴を理解してそれぞれを大事にできる環境を作っていくのは、担任の役目であるので、児童との信頼関係を築いていき、落ち着いて安心できるクラスを作っていきたい。
- 教師は「この子は何に興味があってどうしたいのか」が見えて、その子に必要感があるような状況を作り「ください」のハンドサインや言葉が主体的にできるようになった場面から、個々をよく見ることの大切さを感じました。子どもを肯定的に見ると、次の手立てや言葉かけが浮かんでくることやその子の行動を共有すると思うと、行動のわけや思いの意味が見えてくるとの指導助言者の先生の言葉を動画からも実感できました。テーマ「言葉による伝え合い」の話し合いでは、伝えたくなる体験がまず大事であり、子どもの中に誰かに伝えたい思いがあり、それを伝えて相手が驚いたり喜んだりすることで、伝えてよかったと思えるという事や、先生もうれしさを感じてくれると子どもの次に向かう活力になったり、支えになっているとのまとめの言葉がありました。そのことを心に留め、日々の保育に生かして、子どもに寄り添い、向き合い、過ごしていきたいと思いました。
- ハンドサインやカードを使い、意思を伝えようとする姿や、もう1つの動きを加えるなど、根気よく、丁寧な対応が勉強になりました。自分の思いや意思を言葉で伝えるためには、安心、安全な人と場所があること、また家庭との連携、全職員で取り組むことも大切だということも感じました。

子どもに携わる私共は、健康な子、特別支援を必要とする子などの区別は関係なく、やはり一人一人に向き合いながら関わる必要があると、改めて思いました。

研修を通して、保幼小の情報交換や貴重な意見や提案を参考にし、幼稚園から小学校へ、中学、高校、やがて社会に出る子どもたちの支援・応援ができる保育をすすめて行きたいと思います。

- 発語のない子ども、1語文を話す子どもたちが、カードやハンドサインを使って、自分の意思を伝えようとしている姿がよかったです。子どもたちが必要とする環境を用意してあげることが、大事であることを改めて学びました。細かい配慮や支援をしていくことで、その子どもが成長することから、保育の場でも生かしていきたいです。
- 今回のテーマ「言葉やサイン、身振りなどを使って意思を伝えるための支援」について改めて考えることがあり、大変勉強になりました。中でも子どもたちの中にも自分で発見できる子どももいて、さらにいろいろな力を借りながら少しずつ本人のペースで自分のやりたいことを伝えてくれるサインを出してくれる子どももいる…。そこをよく見てさらにより関わりを持ちながら接していくことが大切だと感じました。まずは状況を考えて対応に配慮すること、今後、教育者としての指導のあり方を考える良い機会になりました。
- 実践発表の中で感じたことは、その子にとっての支援や援助の仕方が大切ということ。言葉での伝え方、先生の対応が重要で相手に伝えるためにハンドサイン、肩たたき、絵カード、写真カードと準備し、状況に合わせた判断が求められるのだと感じた。その子にとり、適切な対応を見極めて準備をしたり、職員同士の情報の共有が必要ということを学びました。保護者とよく話し、対応の仕方を相談したり、ヒントを見つけることも大切に思いました。
- 個別の支援が必要な子に対しては、一人一人の見通しに合った配慮をスモールステップで行うことが必要であり、そのためには子どもとの信頼関係と一人一人の子どもをよく見る観察することが大切である。また、話し合いの中で、問題の行動を起こす子ども、その行動を肯定的に捉えると、次の手立てや思いなどが見えてくるという話があって、印象的でした。
集団を動かしたり育てたりする中で、特別な支援を必要とする子を育てることは難しいこともありますが、一人一人をよく見て関わり、落ち着いた環境を作るなどして関わっていきたいです。また、自信と経験が次のステップへつながっていくので、的確な言葉かけを心がけていきたいと思いました。幼稚園・小学校と他機関の先生方と意見交換することができてとてもよかったです。

